



発行所
福岡市中央区舞鶴
1丁目4番13号
福岡市舞鶴庁舎6階

発行人
会長 榊淳英

福岡市PTA協議会
ホームページ
<http://www.fukuokacity-pta.jp>

福岡市PTA 検索

印刷株式会社西日本新聞プロダクツ

特別支援教育啓発研修会

令和7年9月19日(金) 東市民センターなみきホール

特別支援教育啓発研修会に参加させていただきました。障がいを感じました。講演「絆でつなぐ心と心」を拝聴し、強く心を動かされました。堀内規生さんが道下美里選手と出会い、伴走を重ねる中で語られたエピソードは、人と人との絆の本質を教えてくださいました。特に印象に残ったのは、堀内さんが道下さんに対し「支える」とか「目が見えなくて可哀想」と思ったことは一度もなく、むしろ「パラリンピックで金メダルを目指したい」と夢を与えられ、自分自身もその夢を共に追いかける仲間になれたと語られたことです。真の絆とは一方的な支援ではなく、互いに夢を共有し、信頼を重ねる中で築かれるものだと気づかされました。

このお話を聞いて思い出したのは、小学生の頃に参加した「障がい者と健常者が共に過ごす2泊3日のキャンプ」です。食事や遊び、寝食を共にする中で戸惑いもありましたが、次第に偏見がなくなり、互いを仲間として受け入れられるようになりました。その経験は人との関わり方を考える原点となり、今回の講演はその時の気持ちを改めて呼び覚ましてくれました。

特別支援の現場だけでなく、自分自身の子育てにおいても、子どもの困難さだけに目を向けるのではなく、その子の持つ力や可能性を信じ、一緒に夢を描ける存在でありたいと強く思いました。子どもたちと心と心を結び、共に成長していける教育を目指して学び続けていきたいです。

また、「どうすれば道下さんの目になれるか」を考え、走り方や声かけを工夫し、生活面でも本音でぶつかり合いながら信頼を深めたという話は、「チーム道下」が金メダルという目標を成し遂げられた理由を示していると感じました。さらに、「障がいとは？」という問いに対して、道下さんが「壁だと思われがちだが、見えないうことで余計な情報を入れずに済むなどメリットに感じることもある。障がいとは自分の状態次第で意味が変わる。つまり障がいとは自分次第だ」と語られたことに深

目次

- 01 | 特別支援教育啓発研修会
- 02 | 九P福岡市大会分科会
- 03 | 九P福岡市大会全体会
- 04 | 日P石川大会・指定都市情報交換会千葉市大会・モニターアンケート・編集後記

第1分科会

第一分科会は、城南区、中央区小P連、中P連のボランティアの皆さんのご協力で運営しました。オープニングアクトは博多仁和加五月会の皆様で博多にわかを披露しました。

その後、提言者で宮崎県諸塚村立諸塚小学校と熊本県熊本市立出水南中学校のお話で、PTAが抱えている悩みや改善策などの非常に有意義な討議がなされました。

基調講演はウェルビーイングがテーマで、ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に満たされた状態、「幸せである」という状態を指す概念とあらわされています。

「人と人との繋がりが作る、誰一人取り残すことのない社会をめざす。」を演題に、にのさかクリニック医師の西村先生にお話ししていただきました。

Well-being(ウェルビーイング)WHO(世界保健機構)による健康の定義は、「心も体も周りの人とのつながりもいい状態」のことで、人は多くの人との関わりの中で生きており、人とつながることがウェルビーイングの大事な要素であり、人とのつながりが薬で治療している人よりも死亡リスクも減らすという統計結果に驚きました。

健康に貢献しているのは医療従事者だけでなく、交通事故を防ぐためにPTAの交通安全活動があり、心筋梗塞にならないために、学校

や公民館などの健康教室を開くなど、様々な役割の人たちが関わることでつながりや効果は何倍にもなり、地域やコミュニティが持つ力は大きい。

「子どもたちに幸せになってほしい。」と仲間や先生、家族や地域と共に。また、学校教育と共に行っていくことができ、あるがままの自分で良いと思えて、自分がやりたいことを挑戦できる環境、互いに助け合い、相手のことを思いやり、その優しさが広がっていくような環境づくりを積み重ね、ウェルビーイングをつくっていける場所であることがPTAの大きな役割だと話されました。みんなが幸せになれる活動をしているとお話くださり、自分たちがやってきているPTA活動に少し自信が持てました。講演をしていただきありがとうございました。

当日のボランティアの方々の多大なるご協力があった運営がうまくいったと思えます。中央区のPTAの皆様や特に城南区の小P連、中P連の皆様にはたくさん集まって頂いて感謝しかありません。ありがとうございました。

(運営責任者 坂本孔明)



第2分科会

“博多はひとつ”の心で

第二分科会(家庭教育)は、博多区が担当として運営を行いました。分科会は、博多小学校の子どもたちによるオープニングアクトのおもてなしからスタートし、元気いっぱいの姿が会場を包み込み、“博多はひとつ”の心を感じる温かな幕開けとなりました。

提言者には鹿児島県・大分県の小中学校の皆さんをお迎えし、家庭・学校・地域が一体となって子どもを育てる意義について、実践をもとに発表いただきました。どちらの発表にも、子どもたちへの深い愛情と、地域全体で支える温かい視点があふれていました。

その後の意見交換の場も各県各単位PTAからさまざまな意見が飛び交い、国際会議場メインホールは素晴らしいひと時、一空間になったのではないかと思います。

この日のために、チーム博多区は“博多はひとつ”と“おもてなし”の心を大切に、打ち合わせを重ね、手探りながらも、心を込めて会の運営にあたりました。運営責任者として、この分科会はまさに“負けられない戦い!”という思いで臨みました。

分科会を通して、家庭教育は家庭だけのものではなく、地域全体で子どもを育てるものであることを改めて実感しました。家庭で交わす何気ない会話や笑顔の時間が、子どもの心を育てる大切な土台となります。

これまでの長い準備と当日の運営を支えてくださった実行委員、運営スタッフの皆さん、そしてご参加くださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

今回の分科会で得たつながりと学びを次へのSTEP UPにつなげ、これからも子どもたちの笑顔あふれる家庭教育を育んで頂くことと併せて次の福岡市大会、新たな形、福岡市らしさの会となることを望むとともに、期待いたします。(運営責任者 佐々木良信)



第3分科会

第3分科会は、『人権教育：クローズUP! 多様性と意識改革』として個性を生かし豊かな人間関係を育むためのPTA活動をテーマに開催しました。

これまでの固定概念にとらわれず、PTA活動における「これからの未来型の人権教育とは何か」を考えるととても良い機会となりました。

賀茂小学校の原田校長先生の基調講演はすばらしく、本当の正義についての子どもの考えに止まらず、人権感覚は、「経験」「想像」「気づき」自分の経験から他人の気持ちを考え、どうすればいいか考えさせられました。また、賀茂小学校の保護者様による読み聞かせの実演も大変好評でした!

提言を頂いた両校ともに少々ハプニングはありましたが、提言者の機転のきいた一言が会場をこんなにも雰囲気をよくするものかと感動させられました。提言内容に対する会場からの質疑も活発に行われ、参加者の興味の深さが手に取るようでした。また、指導助言を頂いた内浜中学校の赤池校長先生の助言も素晴らしく、感動の一言だったのは言うまでもありません。

また、アトラクションの出演を快諾くださった昨年の全国大会で金賞を受賞した

MMB・舞松原マーチングバンドの子どもたち、保護者様、指導者の先生方、事前の準備も大変だったと思います。当日は時間ギリギリまで最後の確認に励む姿を近くで拝見し、努力の大切さを学ばせていただきました。今年度も全国大会本選に出場が決まったとのこと陰ながら応援しております!

最後に準備から企画を忙しい中対応していただいた実行委員の皆様、当日の運営については追加のお願いが発生するなど、至らない部分も多かったにもかかわらず、東区の小中学校44校からお手伝い頂いた100名を超える運営スタッフの皆様、また急なお願いにも拘らず総会司会・グループワークの司会をお引受け頂いた高橋様、最後までご迷惑をおかけしたにもかかわらずサポートくださった福岡市PTA協議会の役員の皆様、すべての皆様のおかげで思い出に残る大会になったと思います。皆様には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

(運営責任者 水間道和)



第4分科会

第4分科会は、【教育環境:未来の教育をUPデート】、家庭・社会教育におけるDXをテーマに開催した。単なるICTの導入にとどまらず、PTA活動の中で重要な「子どもを中心とした、家庭・学校・地域のリアルな繋がりの温かさ」を大切にし、DXとアナログを融合しどう活かしていくかを多角的に考えた。当日までは以下の7つのチームによる連携で運営した。

①企画・進行

分科会全体を設計し、構成を練り、資料を基に各登壇者・参加者を中心とした進行台本などを作成した。

②分科会(アトラクション)

すべての参加者が楽しみながら学べるよう、DXを体感できる全員参加のクイズ大会を企画。身近なデジタルツールを用いて無料で大人数が参加できる仕組みを提示・実践した。

③広報・集客

Instagramを活用した大会カウントダウン形式で情報発信。初回投稿から大会翌日のお礼投稿までの44日間連続投稿を実施し、参加募集と期待感を高めた。SNSを通じた広報活動は、大きな経験となった。

④おもてなし・会場装飾

会場の雰囲気づくりを担当。受付横にフォトスポットを設置し、「南区のグルメマップ」や「南区小・中学校のDX自慢動画」を作成して会場内で掲示。また、QRコードを活用し、各校で共有・持ち帰りができる資料としても展開した。

⑤学校連携

おもてなし班と連携し、南区すべての学校に連絡を取り、各校に負担のない形で情報収集を実施。集めた情報を整理・共有し、分科会内容の充実につなげた。

⑥受付・案内・安全

当日の来場者対応を担当し、入念な事前打ち合わせで導線確認などスムーズな受付体制を構築、混雑なく安全面も重視した運営を実現した。

⑦記録・報告

当日の撮影や動画作成、運営・ボランティアメンバーへの事後アンケートを実施。次回以降に活かせる貴重な記録を残した。

当日ボランティアには実行委員と各チームの核となる者の的確な判断と指示により大きなトラブルもなく終わってもらうことができた。

準備段階から当日までZoom(DX)による『どこでも・誰でも・いつでも』の効率性と、対面会議(アナログ)による「熱量と笑顔と一体感の共有」、まさにテーマに掲げた「DXとアナログの融合」のすばらしさを、運営自らが体現する形となった。

南区各学校の運営メンバーからは、「参加できて楽しかった」「感謝します」「大人になっても成長できる」といった声が多く寄せられ、多くの保護者の方々にご参加いただき、学び・感動・絆を共有できた分科会となったことを、心から嬉しく思う。

(運営責任者 清水敦)



第5分科会

第5分科会担当の西区の小P連・中P連から、たくさんの方が運営スタッフとして参加してくださいました。九州各県からの参加者を歓迎する、あたたかい気持ちのこもった対応をスタッフのみなさんがたくさんしてくださったおかげで、分科会がスムーズに進行し、無事に閉会することができました。

参加された方からも、「参加してよかった」、「自分の学校でも実践してみようと思う」、「スタッフの方の対応が良かった」など、嬉しい声をたくさんいただきました。

始まるまでは、うまくいくのか?無事に終われるのか?と不安ばかりでしたが、たくさんの人に助けられ、閉会したときには、安堵感と達成感でいっぱいでした。

10年に1度のタイミングで、このような大きな大会に携わせていただいたことは、自分自身の長〜い人生の大きな財産となりました。

そして、たくさんの方と出会い、みんなで『九P大会福岡市大会の成功』という目標に向かって心をつなげて進んで行ったことは、これからのPTA活動に必ず活かしたいと思いました。

第5分科会のテーマは【広報・地域連携】リンクUP!!情報発信・広報・PR活動ですが、リンクUP(=つながる、人と人が出会う)を強く実感しました。

大会閉会まで、たくさんの方に支えていただき、感謝しかありません。本当にありがとうございました。(運営責任者 平賀真奈美)



特別分科会

UP! PTA! ~これからの未来を描くPTA ~家庭・学校・地域がつながる、新しい一歩

今回の大会スローガン「UP! PTA! ~これからの未来を描くPTA~」には、家庭(保護者)、教職員(学校)、地域(社会)が力を合わせ、子どもたちの未来をより良くするためにPTAを“アップデート”していこうという思いが込められています。

特別分科会では、その願いを「今日の課題」というテーマのもとに展開しました。

元気なチアが開会を彩る

開会を飾ったのは、ふくおかジュニアチアリーディングクラブ FJC☆STARSの皆さん。元気いっぱいの演技で、九州各県から集まった参加者の心を明るく一つにしました。

【基調講演】

「当たり前を疑い、挑戦を学校文化に」

福岡女子商業高等学校 校長 柴山翔太先生

基調講演では、柴山先生が人口減少時代の教育における課題と希望を語りました。

「当たり前を疑い、挑戦を学校文化の中心に据えること」が重要とし、子どもたちが主体的にチャレンジできる組織づくりを紹介。

「やってもよいか」ではなく「どうすればできるか」を考える大切さを伝えました。

【特別分科会】

トーク番組で語り合うPTAのリアル

PTAの「めんどろ」!「よくわからない」!「押しつけられた」といった本音を受け止め、新しい関わり方を探る“トーク番組風シンポジウム”

を実施。

パネリスト:勝野晃氏(実行委員長)ノ馬場展枝氏(副会長)ノ松本光生氏(長崎県前会長)ノ関屋優氏(中央区子ども会副会長)ノ柴山翔太氏(校長)

ゲスト:瀧田文隆氏(板付中学校長)、吉武光洋氏(照葉小中学校長)

トーク①では「PTAあるある」をテーマに笑いと共感が広がり、トーク②では「PTAって必要?」「誰のため?」を真剣に議論。トーク③では参加型アンケートを通して前向きな気づきを共有し、会場全体が温かな一体感に包まれました。

~感謝とともに~

特別分科会は「一人でも多くの人に何かを持ち帰ってほしい」との思いで準備されました。参加者一人ひとりの姿勢が、新しいPTAの形を描く大きな一歩となりました。

(運営責任者 大野雅士)



第70回 日本PTA九州ブロック研究大会 福岡市大会

未来へつなぐ「UP! PTA!」の一步
～第70回日本PTA九州ブロック研究大会福岡市大会を終えて～

九州各地から多くの皆様にご参加いただき、学びと交流に満ちた二日間を共に過ごしました。分科会では、教育や地域の課題について学び、真剣に語り合い、夜の“分科会”では博多の街を舞台に、笑顔と対話があふれる時間が広がりました。まさに「人と人がつながる」PTAの本質を体感する一時となりました。

本大会のスローガン『UP! PTA!～これからの未来（ミライ）を描くPTA～』には、私たち自身が未来を描き、創り出していくという強い意志が込められています。

今、学校教育は大きな転換期を迎えています。「令和の日本型学校教育」の実現に向けて、子どもたちが「自分のよさや可能性を認識し、他者と協力しながら社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く力」を育むことが、教育の目的として掲げられています。これは、知識の伝達を超えた、人間中心の教育への進化を意味し、私たち保護者が児童・生徒の経験で認識している「学力」の概念とは大きく異なるものです。さらに、人生を豊かに生き抜

くためには、知識・技能に加えて、自己肯定感や共感性、課題解決力などの「非認知能力」の醸成が重要であるとされています。このような学びを支えるためには、学校や教師だけでなく、保護者や地域の大人たちが“チーム”として関わるのが不可欠です。学校は「教える場所」から、教師・子ども・保護者・地域が共に学び、共に育つ場へと変わりつつあるのです。

その第一歩は、「今の学校を知ること」です。

学校がどのような目的を持ち、どんな思いで子どもたちに向き合っているのかを知ること、保護者としての関わり方も自然と変わっていくのではないのでしょうか。そして、子どもたちにとってPTAは、「大人たちが私のことを真剣に考え、支え応援しようとしてくれている場所」として映ります。その姿を目にすることで、「自分は大切にされている」と感じると同時に、「私も誰かの役に立ちたい、誰かのために動ける人になりたい」と思うようになるのではないのでしょうか。こうした経験は、子どもたちが人との繋がりや思いやりを学ぶきっかけとなり、つまり、PTA活動は、子どもたちの“心の教育”にも繋がっているのです。

「知ること」は、無関心を「関心」に、偏見を「理解」に、孤立を「つながり」に変える力を持っています。

また、皆様からいただいた感想を拝見する

と、分科会の基調講演や討議を通じて多くの学びがあったとお声が多数寄せられました。一方で、課題も見えてきました。特に全体会の講演内容については、出演者と目的や意図の共有に齟齬があり、様々なご意見を多くいただきました。主催者として大変申し訳ない気持ちと併せて、教育的価値と興行的価値のバランスをどう取るかという難しさを痛感し、これは今後の福岡市PTA協議会の研修事業においても重要な検討課題です。

しかし、課題があるからこそ、私たちには伸びしろがあります。「PTAの研修は楽しいし、ためになるから参加したい!」と自然に思える文化や風土を育むために、私たちは中長期的な視点で、情熱と意図を持って取り組んでいく必要があります。出会いや気づきが今日の行動につながり、子どもたちの未来を少しずつ動かしていく。そんな力と可能性が、私たちにはまだまだあると信じて疑いません。

だからこそ今、『UP! PTA!』なのです。私たち自身が、今ここから始めるのです。

九プロ大会は終わりましたが、PTAの未来はこれからです。この大会が、子どもたちと会員の皆様の笑顔につながる一歩となったことを願って。そして、これからも皆様と共に、未来を描いていきたいと思っています。

本大会の開催にあたり、ご支援・ご協力いただいた全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

大会会長 福岡市PTA協議会 会長 榊 淳英



全体会 記念講演会

食の道 料理は最強のコミュニケーションツール

令和7年10月19日(日)に開催された全体会での速水もこみち氏による記念講演は、終始、大変面白く、そして魅力に満ちていました。俳優としての多岐にわたるご経験から語られる言葉は、聴衆を引き込む力があり、全く堅苦しさを感ぜせない、楽しい雰囲気で行進しました。仮に講演が形式ばったものであれば、退屈して途中で席を立つ人がいたかもしれません。今回の進行内容と共にお話の全てが本当に素晴らしく、最後まで引き込まれるものでした。

特に印象的だったのは、ご自身の料理や食に対する向き合い方、そして仕事場での様子を垣間見せてくださったことです。講演を聴きながら、「無性に家族でキャンプに行きたくなった!」、「子どもと料理を一緒に作ろう!」と感じた方も多かったのではないのでしょうか。私自身も、後日速水もこみちさんのYouTubeチャンネルを観て、早速子どもと一緒に料理に挑戦してみようという、新たな意欲が湧きました。食卓を囲む喜びや、共に簡単なものでも良いから料理をする楽しさが、講演を通じて強く伝わってきたからです。

また、講演後には、「僕でも洗顔と化粧水だけで、もこみちバりにイケメンになれると希望の光が差ししました!」という、ユーモラスな感想も聞くことができました。これは、速水さんの持つ明るさ、親しみやすさ、そして講演を通して発せられた優しくポジティブなエネルギーが、我々 PTA会員（特におやじたち）に希望を与えたことの証でしょう。

今後への期待として申し上げたいのは、速水さんから食に関する貴重なお話を聞いたのだから、その内容をPTA活動へ活かすための具体的な「食を通じたPTA、または親子で出来そうな事例となる案」などを、その場で提供していただけたら、さらに嬉しかったという点です。例えば、食育や共同調理体験など、PTAが主催できる活動のアイデアがあれば、講演の感動をそ

のまま活動への原動力とできたことでしょう。

とはいえ、速水さんの講演は、聴いていて本当に楽しく、多くの活力をいただきました。この楽しさと、家庭での食を通じた親子の触れ合いの場を大切にしたいという気持ちを、今後の生活や活動に繋げていきたいと思っています。素晴らしい記念講演を、ありがとうございました。

最後に全体会の準備をご多用の中対応してくださった早良区の皆さま、当日の運営については至らない部分も多かったにもかかわらず、最後まで一緒に走り抜けていただき誠にありがとうございました。全体会に参加いただいた皆さま、細やかな調整をしてくださった本大会事務局の皆さん、実行委員会の皆さん、すべての皆さまのおかげで思い出に残る全体会になったと思います。皆さまには感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

それでは、また10年後の福岡市大会で!



大会実行委員長 勝野 晃

第73回日本PTA全国研究大会 石川大会

令和7年
8月22日(金)23日(土)災害の教訓を未来へ
地域と共に守る子ども達の学び

「日本PTA全国研究大会石川大会」に、
早良中学校PTA役員、別府小学校PTA役員、城南小学校PTA役員が参加しました。



初日は第3分科会「地域連携」に参加し、研究課題「災害を通して得られた教訓を生かす」後悔のない備えを地域の力で」をテーマに学びを深めました。

基調講演では、輪島市教育長・小川正氏が「教訓を生かす学校・地域との連携」と題して、令和六年能登半島地震での経験を語られました。高齢化率が約50%にのぼる輪島市では、中学生が避難所運営を支え、地域の一員として行動した様子が紹介されました。その姿は、「教訓とは、せざるを得ない中で得た学びである」という言葉に重なり、心に深く残りました。

「安全・安心は衣食住と同じく、学びの場を守るために欠かせないもの」。

講演を通して、日頃から地域とつながり、子どもたちが自分の身を守る力を育てることの大切さを実感しました。私たちPTAも、地域とともに学び合い、支え合う関係づくりを続けていきたいと思っています。

エクスカッション参加報告

当初は「のと鉄道に乗りし、語り部さんによる沿線案内」を予定していましたが、出発の1週間前に発生した豪雨災害により土砂崩れが起き、線路が通行できなくなりました。

そのため急遽計画を変更し、一部をバスで移動、多田屋旅館を訪問する内容となりました。

多田屋の若女将さんは七尾市PTA協議会の副会長でもあり、被災後の現状や復旧への思いをお話いただきました。

復旧途中の旅館の様子を拝見しながら、地域の方々の前向きな姿勢や、支え合いの大切さを改めて感じる時間となりました。

また、当日参加できなかった方々からも「現地の様子を知ることができた」「行けなかったけれど気持ちは一緒に寄り添えた」といった感想が寄せられました。

参加者・不参加者を問わず、皆で地域や仲間とのつながりを感じられる貴重な機会となりました。

日P(日本PTA全国協議会) 参加報告

今回は日Pに参加することができなかった保護者に、報告書を通してお話を伺いました。

参加した役員さんがしっかりと資料をまとめたくださったおかげで、能登半島地震による被害が生活や教育にどのような影響を与えたのか、また今後どのような対策が必要なのかを共有することができました。

特に「自分の命は自分で守る(自助)」という考え方の大切さについて、深く考えさせられました。このことは、帰宅後すぐに自分の子どもたちにも伝えました。

また、学校や地域との連携の重要性も改めて感じました。日頃から地域活動を通じて関わりを持つことが、いざという時の大きな力になるのだと思います。

災害への備えにはまだ多くの課題がありますが、一人ひとりが意識を持つことで変えられることもたくさんあると感じます。

「命があることは当たり前ではない」ということを忘れず、いつどんな時に自分の身に起こるかかわからない災害について、まずは身近な家族と共に考えていきたいと思いました。

第80回指定都市PTA情報交換会
千葉市大会令和7年9月11日・12日
千葉市生涯学習センター

子どもたちのために持続可能な未来を

～子どもたちの未来のために、
保護者・学校・地域は何ができるのか～

政令指定都市PTA間の連携を図るとともに、情報交換を密にし、共通の課題を見つけ、その解決の方向性を検討する目的で18協議会から約125名のPTA関係者が参加しました。

1日目は4つのテーマに分かれて分科会が開催されました。

- ① 持続可能なPTA組織と運営「組織・運営」
- ② 今求められているPTA研修「研修活動・成人教育」
- ③ 地域とPTAができる不登校対応「地域連携」
- ④ PTAにおけるICT活用「広報・情報活動」

それぞれの分科会では、各都市の状況を共有するとともに、様々な角度から活発な意見交換がされました。

2日目は、全体会にて各分科会の報告の後、NPO法人千葉こども家庭支援センター副理事長・元千葉市立小学校長 宇田英弘氏による記念講演「学校教育と不登校支援をつなぐ」～元校長が語る子どもたちへの支援～がありました。

文部科学省の統計によると令和5年度の調査結果では不登校の子ども数が約35万人と過去最高を更新。「学校復帰」を最善として取り組んできた時代から、子どもたちの将来的な「社会的自立」を目指す方向へと変わりました。誰一人取り残さない教育を推進する為に、学校・保護者・地域・行政の連携が重要であることを改めて認識しました。

一番印象に残ったのは、「みんなは教室で椅子に座って勉強する事を普通と言うけれど、僕にとっては教育支援センターで座って勉強する事も普通だよ。」という児童の言葉でした。私たちは「普通」という言葉に囚われているのかもしれませんが。保護者としては、まずは知ること、そして不登校児童生徒を持つ保護者同士の繋がりを作る事や、地域行事とも連携して誰一人孤立しないようにするにはどうすればいいのかを考え、それを行動にうつす事が大切だと思いました。

来年度の指定都市PTA情報交換会は福岡市です。政令指定都市ならではの情報交換や学びの場を作れるように尽力して参ります。



学校・PTA自慢募集中！

ご自身の学校の自慢やPR何でもOK！
ふよふの記事に載せてどんどんアピール
お願いします。
たくさんのご応募お待ちしております。



148号モニターアンケート

- ・ふよふの配布が遅かったので、早く配布してほしい。
- ・コメントの字を大きくしてほしい。
- ・一般会員に向けてなのでわかりやすさや、お得な内容や特典があるともっと手にとってくれると思う。
- ・カラフルで読みやすかった。

編集後記

広報委員が新しいメンバーになり、心機一転フレッシュな気持ちでお届けします。毎号楽しみにしてください。心を込め委員全員で制作します。

坂本孔明